

令和6年度群馬県教育委員会の点検・評価委員会結果概要

1 期 日

第1回 令和6年6月24日（月）14:00～16:00

第2回 令和6年7月 9日（火）14:00～16:00

2 場 所

県庁舎24階 教育委員会会議室

3 審議事項

(1) 令和6年度 教育委員会の点検・評価（令和5年度対象）の進め方

(2) 令和6年度 教育委員会の点検・評価に係る各所属の自己評価に対する
意見について

4 委員の主な意見

別紙『令和6年度点検・評価委員会（第1回、第2回）における主な意見と
対応について』のとおり

5 結論

委員の意見に基づき、自己点検・評価案を修正し、教育委員協議会での協議、
教育委員会会議での決定を経て、県議会へ提出・公表した。

令和6年度点検・評価委員会(第1回、第2回)における主な意見と対応について

基本施策1		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
英語能力の育成について、ルーブリックが効果的に活用されており、児童生徒と教員が学習の目標を共有し、一緒に学びを作ることができている。	評価できる点	第1回
「尾瀬シーズンスクール」及び「尾瀬ネイチャーラーニング」について、STEAM教育を群馬ならではの形で実践する優れた取組の一つである。	評価できる点	第1回
産業教育について、現在、企業で使われていないような古い設備で実習をしている事例もある。生徒が社会に出た際に必要とされる技能の習得に資するため、クラウドファンディングの活用や、企業が利用しなくなった比較的新しい設備を譲り受けるなど、より新しい設備を調達できるよう工夫してほしい。	課題	第1回
就職を希望する生徒が様々な業種を知った上で適性を判断できるよう、複数の企業を比較検討できる機会をより多く設けられるとよい。	課題	第1回
基本施策2		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
科学の甲子園ジュニア群馬県大会、群馬県高校生科学コンテスト、SSH等の取組は、関係機関との連携により、内容の充実が図られている。	評価できる点	第1回
理数教育の推進について、5年間の成果がよく現れており、子どもたちの興味関心を高め、力を付けることができている。	評価できる点	第1回
科学の甲子園ジュニア群馬県大会、群馬県高校生科学コンテストの意義を更に周知し、挑戦する生徒を更に増やしていけるとよい。	課題	第1回
教育データの利活用について、児童生徒の学習状況の把握等に有効であるため、効果的に活用できるよう推進していくべきである。	課題	第1回
これまでどおり、データだけでは見えない児童生徒の変化を教職員がしっかりと見取りながら、データ利活用を推進していくことが重要である。	課題	第1回
基本施策3		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
道徳推進研究協議会や道徳教育総合支援事業の指定校における研究成果等が広く共有され、資料を読み取ることが中心の道徳教育から、児童生徒が主体的に考え、議論する道徳教育へと改善が図られている。	評価できる点	第1回
「自然体験活動」及び「社会体験活動」について、青少年自然の家における体験活動や、青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）における体験活動への参加者が増加傾向にあり、学びの機会を広く提供できている。	評価できる点	第1回
ボランティア活動の意義（地域課題の解決や社会の改善に関われること、また、自らの課題解決にもつながることなど）を、子どもたちにより一層強く伝えていくことが必要である。	課題	第2回
基本施策4		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
児童生徒の運動機会について、全国調査において平均よりもおおむね良好な結果となっており、運動習慣を身に付けさせることができている。	評価できる点	第1回
がんやHIVなど様々な疾患に係る教育が行われているが、症例が多く身近な疾患について、関係課と連携しながら、早い段階から積極的に周知啓発を行っていく必要がある。	課題	第1回
H P V感染症のワクチン接種についても、関係課と連携して啓発に努めるべきである。	課題	第1回
学校における初発のアレルギーへの対応は非常に難しいが、教職員がアレルギーに係る基本的な対応を身に付けられるよう、教育委員会作成のマニュアルや県主催の研修会等での周知を図ることが重要である。	課題	第1回

基本施策5		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
総合教育センターにおける教職員研修は、育成指標に基づき、系統立て効果的に実施されており、職階ごとに必要とされる資質能力の向上が図られている。	評価できる点	第2回
特別支援学校と小中学校で実施する「交流及び共同学習」は、同じ地域に暮らす障害のある子どもとない子どもの交流のきっかけとなっている。	評価できる点	第2回
研修履歴を効果的に活用し、教職員が自身の資質能力の向上を実感でき、また、管理職からのキャリアに関するサポートを感じられるような取組を推進する必要がある。	課題	第2回
各学校において、同僚性の高い職場づくりを一層推進する必要がある。	課題	第2回
基本施策6		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
「総合的な探究の時間」において、防災や交通安全等の課題解決に取り組む高校生が非常に増えており、学校における防災・安全教育が子どもの課題意識を喚起するとともに、主体的な安全確保につながっている。	評価できる点	第2回
防災教育では、体験型の訓練をより一層充実させる必要がある。	課題	第2回
自転車乗車時のヘルメット着用が常時行われるよう、年間を通じて指導を継続していく必要がある。また、自転車運転時のマナーについても継続した指導が必要である。	課題	第2回
基本施策7		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
「親への学びの場を提供している団体数」が目標に近い水準まで増加するなど、子育てに関する学習機会の提供が進んでいる。	評価できる点	第2回
家庭の教育力向上に係る施策について、更に多様な取組を推進していくことが必要である。	課題	第2回
基本施策8		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
県立社会教育施設では、時代の流れも踏まえて、工夫しながら魅力ある展示や体験プログラム等を行っており、コロナ禍で入場者数の減少等が見られたものの、県民の生涯にわたる多様な学びの充実に資する取組を行っている。	評価できる点	第2回
社会教育施設では、SNSによる情報発信を一層強化していくことが必要である。	課題	第2回
社会教育施設と学校教育との連携を強化し、施設の知見を子どもたちの課題解決に役立てられるような取組を一層推進していく必要がある。	課題	第2回
教育イノベーションプロジェクト		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
教育DXの推進により、保護者からの欠席連絡など、校務のデジタル化等が進んでいるが、教職員の真の負担軽減につながるよう、工夫しながら取組を進めてほしい。	意見	第1回
「AIとどのように付き合っていくか」ということは重要なテーマであり、発達段階に応じた授業等での活用や校務での活用などについて検討を進めてほしい。	意見	第1回
AIの進展により、今後、教育の内容自体が変わっていく可能性がある。	意見	第1回
教育委員会全体の取組		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
第3期教育振興基本計画の5年間は、コロナ禍の影響により、当初想定し得なかった対応を数多く迫られた期間であったが、県教育委員会として、直面する課題に工夫を凝らしながら対応した。	評価できる点	第2回
教師や学校に求められる役割・仕事が増え続ける中で、専門家を含めた「チーム学校」で対応する体制の構築が着実に進められている。	評価できる点	第2回
精神的な問題を抱える若者が少なくないため、子どもたちが自己肯定感・自己有用感を持てるような教育を一層推進してほしい。	課題	第2回
今後の点検・評価の実施に当たっては、「評価疲れ」が生じないよう、事務負担の軽減等も考慮する必要がある。	課題	第2回